S6-3

『小児保健研究』初巻から辿る子育て支援への道

山崎 嘉久

あいち小児保健医療総合センター　保健センター

小児保健研究は、1933 年（昭和 8 年）に初巻第一号が発刊された。東京神田の協会事務局には、初巻から電子ジャーナルとなる第75巻5号（1945年～1953年休刊）までの冊子が保管されている。今回、現代の小児保健のキーワードである子育て支援の歴史を辿ってみた。データソースは 1935 ～ 1964 年は国立国会図書館デジタルコレクション（未収載巻は事務局保管の冊子から）、1965 年以降は医学中央雑誌により抽出した。

医学中央雑誌の検索では、「育児支援」が表題・抄録やキーワードに用いられた論文の初出は 1995 年、「子育て支援」は 2002 年で、そのいずれかが 1995-1999 年 2 編、2000-2004 年 28 編、2005-2009 年 24 編、2010-2014 年 36 編、2015-2019 年 15 編の計 105 編に用いられていた。会議録の初出は「育児支援」1994 年、「子育て支援」1993 年で 2019 年までに 132 件あり、小児科医、看護職、保育職など多職種が同時多発的に利用し始めていた。1994 年の文部省・厚生省・労働省・建設省の「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」の通知や 2001 年からの「健やか親子 21」で、育児支援に重点を置いた乳幼児健診事業の実施が指標に取り上げられたことなどが背景にあると考えられた。なお、「育児」を含む論文・会議録は、1965-1994 年に 112 編・524 件、1995-2019 年に 604 編・683 件で、このうち「育児指導」を含むものは 1965-1994 年に 3 編・12 件、1995-1999 年に 3 編・2 件で、2000 年以降は認めなかった。

時代を遡ると、1933-1944 年は乳児死亡が主要課題で、小兒疾患の疫學・統計、小兒急性傳染病豫防、乳兒榮養方法などの記述が多くを占めていた。女學校高等科生徒の育兒實習の成績に就て（小林彰ら 1939 年）では女子教育の重要性が、農村の育児指導（高木泰 1954 年）では保健所などでの育児指導の困難さが記されている。1963 年のシンポジウム「育児における家庭の責任 , 地域社会の責任」では、「育児に最も重要な役割を担う母親の誇りと責任、自覚、そして、母親たちへの教育」が重要とされ、1961 年に始まった 3 歳児健診で育児指導書を配布して知識を普及する必要性が記述されている。つまり科学的な知識を「保健婦、助産婦、学校養護婦、教員など」を介して母親に伝える育児指導が中心であった。

小児保健研究は、20 世紀型の育児指導が、21 世紀の健康課題の大きな変革を背景に、育児支援・子育て支援に代わっていった史実を後世に残す貴重なレガシーでもある。

Presented by Medical*Online